

# NEXT STAGE

武蔵台小中学校  
進路だより 最終号  
令和8年 3月12日  
発行者 川井田 直人

## スタートライン —「その先」の自分を信じて—

この1年を振り返ってみる。修学旅行、学総、長い夏休み、大運動会、なかよし音楽会。どの行事も忘れられない思い出だが、その最高の思い出の裏側には、常に「進路」という2文字があった。

日常も同様だ。いつから受験勉強に本気を出したか。塾に通う日々、一喜一憂した順位や点数。時には高校選びを面倒に感じ、提出物を失くし、勉強よりもゲームの誘惑に負けそうになったこともあっただろう。誰もが誘惑と戦い、進路という言葉に憂鬱さを感じた1年だったに違いない。

進路希望がかなった者もいれば、かなわなかった者もいる。それが厳しい現実だ。しかし、人はその現実の中で生きていかなければならない。

私は小学3年生の時、野球をやりたいと言った。「家の事情でできないけど、これならいいよ。」代わりにラケットを握ることになった。だが、それが野球より自分に向いていると気づき、今でもテニスが続けている。

また、4年生のクラブ活動では、第3希望だった「なわとびクラブ」に割り振られた。しかし、3年間続けるうちに、気づけばクラブで一番なわとびが得意になり、大学ではダブルダッチにのめり込むこととなった。

ここで伝えたいのは、「必ずしも自分の希望通りでなかったとしても、それは案外いいものかもしれない」ということだ。これまでの学校生活を思い出してほしい。係、委員会、部活、職場体験、実行委員会、部屋決め、席替え、給食のおかわり……。話し合い、ぶつかり合い、本気のじゃんけん、運命のくじ引きによって、自分を納得させることの方が多かったのではないか。それでも君たちは、決まった役割を十分に果たしてきた。その経験は、進路先やその先の人生で必ず生きる。

高橋先生の言葉を借りれば、「受験はゴールではない、スタートラインなのだ」。人生は、次の目標を決めて走り出すことの繰り返しである。

4月、君たちはそれぞれのスタートラインに立つ。もはや義務教育ではない。その進路先に足を踏み入れるのは、他ならぬ君自身の意志だ。台っ子の君ならできる。

1年間、ありがとうございました。

### 連絡

進路先で、キャリアパスポートを提出してください。提出日等は、進路先の指示に従うようにお願いします。

### 保護者の皆様へ

お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。この1年は、常にお子様「進路」という大きな壁と向き合う日々でもありました。受験勉強の苦悩や、誘惑に負けそうになるお子様の姿を、一番近くで見守り、励まし続けてこられた保護者の皆様のご心労をお察しいたします。学校生活での様々な経験を通じて、お子様は「与えられた場所で全力を尽くす強さ」を身につけました。新たなスタートラインに立つお子様の未来が、希望に満ちたものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。1年間、本校の進路指導にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。